



秘境の地底人

エイブラハム・メリッ
ト (羽田詩津子訳)
朝日ソノラマ (文庫)
(3/31刊・¥540)

メリットの短篇集である。例によって、底本から表題作などを除いた、日本版オリジナル作品集と思われる。それでも、長篇が主な作家だったから、珍しい内容になっている。

未完の長篇の冒頭部分、あるいは「金属モンスター」の一部など、短篇の体裁をなしていないものも含まれる。中では、光る生物の住む穴に、降りていった男「秘境の地底人」(探険家のキャンプにたどり着いた、瀕死の男が話す、信じられないお話という、よくあるパターン)や、鏡の中に作られた異世界を描く、処女短篇「竜鏡の向こうに」、蜂に変身する男「蜂になった男」などが印象に残る。物語としてつまらない作家ではないけれど、設定に対するくどいほどの描写に特徴があった。本書でも、地底に降りていく様子や、竜鏡の描写にその才能が表れている。しかし、やはり長篇に本領のある作家なのだ。後書きにも触れられているが、メリットは一時期まとめて紹介されたことがある。代表作も多く翻訳された。文庫にも数冊落ちているはずなのに、簡単に手に入るのが『イシユタルの船』だけ、というのはちょっと寂しいように思う。